子育て世代が地域福祉活動に参加するための有効な働きかけに関する研究

A study of Effective Promotion for Participation in Community Welfare Activity by the Child-rearing Generation

近　棟　健　二
Kenji CHIKAMUME

本研究の目的は、子育て世代で地域福祉活動の担い手である子育てキーパーソンの特性と活動状況を把握し、子育て世代が地域福祉活動に参加するための有効な働きかけについて探索を行うことである。

子育てキーパーソンには、現住所での居住期間が長い、地域活動への参加率、自己観として「相互独立性」が子育てサロン参加者と比べ高いという特性がみられた。

また、講座受講後に何らかの活動に参加している子育てキーパーソンが8割を超え、参加理由としては、「楽しそうだから」が過半数を占めている。

そして、子育て世代が地域福祉活動に参加するための有効な働きかけとして「親密性（親身な接し方）」「主体性（子育て世代主体の運営）」「継続性（社協職員の継続的な関わり）」「連結性（人と人をつなげる働きかけ）」の4点が推察された。

キーワード：地域福祉、子育て支援、社会福祉協議会

（種智院大学・助教）

1．研究目的

地域福祉の推進において住民の参加は欠かせない要素である。和田は、地域福祉を「与えられる福祉ではなく、地域社会が皆で、つくりあげていく福祉であり、責任を分かちあい、参画し、支え、発展させ豊かにしていく福祉である」[1]としている。また、武川は、「自治体をはじめ地域社会を構成する団体や個人のすべてが、地域福祉の当事者であると考えていかなければならない」[2]と述べている。

しかし、現実には住民参加が十分に進んでいるとは言い難く、特に若い世代の参加は少なく課題となっている。

そのような状況の中、子育てサークルや子育てネットワークを通じて子育て世代が地域福祉活動に参加し、それらの活動が地域づくりに寄与するという指摘がされている。[3)]

2000 年代以降、社会福祉協議会においても子育て支援への取り組みが広がっており、なかでも子育てサロンは 2008 年４月現在で 3000 カ所以上設置されている。[4)]

その中の一つである三重県菰野町社会福祉協議会では、地域福祉活動支援の一環として子育てキーパーソン養成講座を実施し、子育て世代が子育てサロンを中心とした地域における子育て支援活動の担い手となっている。

本研究においては、子育て世代で地域福祉活動の担い手である子育てキーパーソンの特性と活動状況を把握し、子育て世代が地域福祉活動に参加するための有効な働きかけについて探索を行う。

２．研究方法

三重県菰野町社会福祉協議会が実施している子育てキーパーソン養成講座受講者（2002 年～ 2009 年度）153 人に調査票を送付した。

調査内容は、属性、子育て状況、子育てキーパーソン活動状況、受講後の変化についてである。

回収数は 93 部。回収率は 60.1 %であった。調査期間は、2010 年３月～４月である。

また、比較のため、子育てサロン参加者のアンケート調査も実施した。配布数は 120 部、回収数は 60 部、回収率は 50.0 %であった。

調査データの分析には、SPSS（13.0J）を用いた。

子育てキーパーソンの特性を探るために「相互独立的自己観・相互協調的自己観尺度」（高田）について、「ぴったりあてはまる」（７点）から「全くあてはまらない」（１点）の７件法で平均点を算出した。また、子育て状況では、「育児に関する不安尺度」（牧野）について、「あてはまる」（４点）から「あてはまらない」（１点）の４件法で平均値を出し、それぞれ子育てサロン参加者との比較を t 検定で行った。

そのほかの基本属性についても子育てサロン参加者との χ^2 検定を行っている。

３．菰野町社会福祉協議会子育て支援事業と子育てキーパーソンの概要

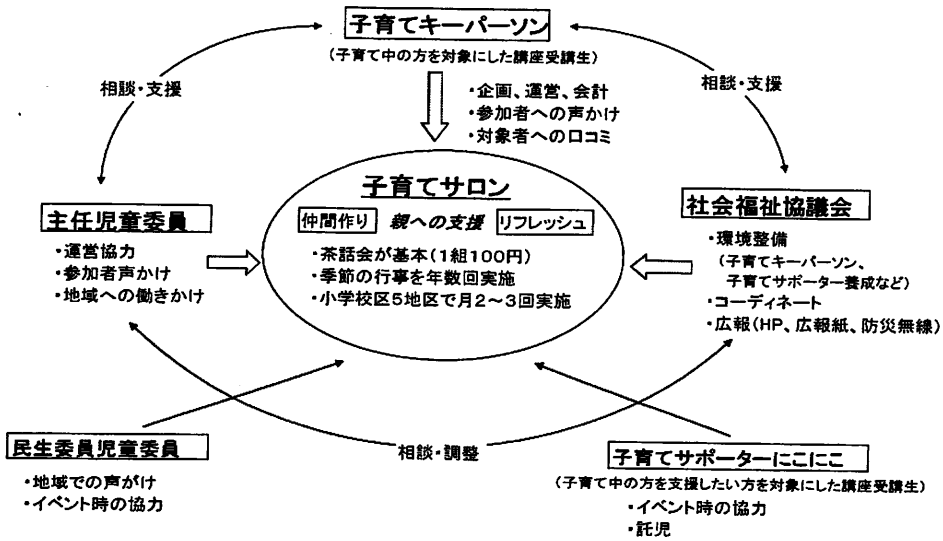
菰野町は三重県の北部に位置する人口４万人強の町である。高齢化が進んでいたが、近年、近隣市町への工場設置が進み、若年層も増えている。その結果、核家族の孤立化が課題となり社会福祉協議会が中心となり、子育て支援事業を進めている。

子育て支援事業の中核をなすのが 2002 年より始めた子育てサロンである。子育て世代の仲間作りとリフレッシュを目的とし、小学校区ごとに月に２～３回実施している。茶話会を基本としてクリスマスや七夕など季節の行事を取り入れている。

開始当初は主任児童委員を中心に取り組んでいたが、子育て世代の主体性を尊重するために子育て世代中心の運営に切り替わっていった。運営の担い手を育成するために実施したのが子育てキーパーソン養成講座である。子育てサロン参加者を中心とした各小学校区３～５人程度の受講生がワークショップなどを通じ、子育てサロン運営の意識付けとキーパーソン同士の仲間意識の醸成を行っている。

子育てキーパーソンは子育てサロンの企画・運営、参加者の声かけなどを担い、それを社会福祉協議会や主任児童委員がサポートする体制となっている（図１）。

図１　子育てキーパーソンの位置づけと役割



なお、子育てキーパーソン養成講座の概要は次の通りである。

①対象　町内在住の未就学児を持つ親
②実施状況　平成14年から毎年1回開催、5小学校区から3～5人ずつ受講
③募集方法　社会福祉協議会広報紙・ホームページ、町広報紙、子育てサロン参加者への呼び掛けなど
④講座内容　読み聞かせ講座、料理教室、親子遊び、子育て支援ワークショップなど
⑤費用　無料
⑥その他　託児付き（300円／回）

4．研究結果

1）子育てキーパーソンの特性

子育てキーパーソンの特性を子育てサロン参加者との比較から検討する。

年齢については、「30歳代」が7割弱を占める。「20歳代」は3.2％と低くなっているのに対し、「40歳代」が3割弱を占める。30歳代以下が9割を占めるサロン参加者より有意に高い傾向となった（表1）。

職業については、最も高い割合を占めるのは「専業主婦」であるが、「パートアルバイト」も4割で「フルタイム」や「自営業」、「育児休業中」を足すとほぼ、半数の方は仕事についている。サロン参加者は「専業主婦」が73.3％と最も高い割合を占め、「パートアルバイト」等仕事を持つ方は3割弱であり、有意な差がみられた（表2）。

子どもの数は、2人以上が86%を占め、「1人」は8.6％と低くなっている。サロン参加者は「1人」が53.3％と半数を占めており、有意差がみられた（表3）。

現住所の居住期間は「5年以上」が76.3％と最も高いのに対して、3年未満は10％に満たない。サロン参加者に比べて居住期間が長いことが有意にみられた（表4）。

地域活動への取り組みについて複数回答で尋ねたところ、「幼稚園・保育所の保護者会役員」の経験が57.0％とサロン参加者と比較して有意に高くなった。また、「子育てボランティア」、「小・中学校のＰＴＡ役員」も有意に高くなっている（表5）。

表1　年齢

	子育てキーパーソン		子育てサロン参加者	
	度数	パーセント	度数	パーセント
20歳代	3	3.2	14	23.3
30歳代	64	68.8	40	66.7
40歳代	26	28.0	6	10.0
合計	93	100.0	60	100.0

$\chi 2 = 18.919, p < 0.001$

表2　職業

	子育てキーパーソン		子育てサロン参加者	
	度数	パーセント	度数	パーセント
専業主婦	42	45.2	44	73.3
フルタイム	3	3.2	1	1.7
パート・アルバイト	38	40.9	10	16.7
育児休業中	2	2.2	4	6.7
自営業	4	4.3	1	1.7
学生	1	1.1	0	0.0
その他	2	2.2	0	0.0
無回答	1	1.1	0	0.0
合計	93	100.0	60	100.0

$\chi 2 = 16.857, p < 0.05$

表3　子どもの数

	子育てキーパーソン		子育てサロン参加者	
	度数	パーセント	度数	パーセント
1人	8	8.6	32	53.3
2人	55	59.1	23	38.3
3人	25	26.9	5	8.3
4人	5	5.4	0	0.0
合計	93	100.0	60	100

$\chi 2 = 40.534, p < 0.001$

表４　現住所居住期間

	子育てキーパーソン		子育てサロン参加者	
	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ
６ヶ月未満	1	1.1	2	3.3
６ヶ月から１年未満	1	1.1	5	8.3
１年から３年未満	7	7.5	15	25.0
３年から５年未満	13	14.0	19	31.7
５年以上	71	76.3	19	31.7
合計	93	100.0	60	100.0

$\chi 2 = 31.423, p < 0.001$

表５　地域活動

	子育てキーパーソン N=93		子育てサロン参加者 N=60		
	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	度数	ﾊﾟｰｾﾝﾄ	
幼稚園・保育所の保護者会役員	53	57.0	3	5.0	$\chi 2 = 42.481, p < 0.001$
子育てボランティア	47	50.5	11	18.3	$\chi 2 = 2.902, p < 0.001$
子育て以外のボランティア	19	20.4	6	10.0	
小・中学校のＰＴＡ役員	26	28.0	0	0.0	$\chi 2 = 20.208, p < 0.001$
自治会の役員	13	14.0	4	6.7	
その他	2	2.2	1	1.7	
参加なし	9	9.7	40	66.7	

「育児に関する不安尺度」では、子育てサロン参加者との比較で有意差がみられたのは、「子どもをおいて外出するのは心配で仕方がない」、「自分一人で子どもを育てているのだという圧迫感を感じてしまう」でともに子育てキーパーソンが低い結果となった（表６）。

表6　育児不安尺度

	子育てキーパーソン	子育てサロン参加者	
子どもをおいて外出するのは心配で仕方がない	2.42	3.02	t値＝4.299,p＜0.001
自分一人で子どもを育てているのだという圧迫感を感じてしまう	1.49	1.80	t値＝2.302,p＜0.05

子育てキーパーソンが自分自身をどのようにみているのかを検討するために高田（2000）が作成した相互独立的自己観・相互協調的自己観尺度で測定した。

相互独立的自己観は、個人は他者と分離・独立している存在で独自性を主張することが必要という西欧的自己観であり、相互協調的自己観は、人は個別的ではなく、さまざまな人間関係の一部になりきることが重要であるという東洋的自己観であるとされている。

子育てキーパーソンは子育てサロン参加者と比べると「相互独立性」が有意に高い結果となった。なかでも、「自分が何をしたいのか常に分かっている」「いつも自信をもって発言し、行動している」など「個の認識・主張」が有意に高い結果となった。「相互協調性」では、「人から好かれることは自分にとって大切である」以外では、有意差がみられなかった（表7）。

2）子育てキーパーソン活動状況

子育てキーパーソン養成講座の受講理由を複数回答で尋ねたところ、「講座内容に興味があったから」が 63.4 %と最も高くなった。次いで「託児付きの講座だったから」が 43.0 %、「友だちを作りたかったから」が 35.5 %となっている。その他にも「友だちに誘われたから」「社会福祉協議会職員に誘われたから」「子育てキーパーソンの活動が楽しそうだから」が 25 %を超えている（表8）。

活動状況については、「現在、活動中」と「参加したことはあるが、現在は参加していない」を合わせると 81.7 %となり多くの方が活動に参加している（表9）。

参加したことがあると回答した方へ参加した活動について複数回答で尋ねたところ、「子育てサロン企画・運営」への参加が9割を越え、最も高い結果となった。「フォローアップ研修会」へも半数弱が参加している（表 10）。

それぞれの活動に参加した方に参加理由を複数回答で尋ねたところ、「子育てサロン企画・運営」では、「楽しそうだから」が 58.0 %と最も高く、次いで「活

表 7　自己観尺度

	子育てキーパーソン	子育てサロン参加者		子育てキーパーソン	子育てサロン参加者		子育てキーパーソン	子育てサロン参加者
常に自分自身の意見を持つようにしている	4.81	4.58	個の認識・主張 (t値 2.543 $p < 0.05$)	**4.34**	**3.93**	相互独立性 (t値 2.228 $p < 0.05$)	**4.20**	**3.87**
自分が何をしたいのか常に分かっている(t値＝2.304 $p < 0.05$)	**4.38**	**3.88**						
自分の意見をいつもはっきりと言う	4.18	3.83						
いつも自信をもって発言し、行動している(t値＝2.772 $p < 0.05$)	3.99	3.42						
一番最良の決断は、自分自身で考えたものであると思う	4.38	4.22	独断性	4.09	3.84			
自分でいいと思うならば、他の人が自分の考えを何と思おうと気にしない	3.22	3.03						
自分の周りの人が異なった考えを持っていても、自分の信じるところを守り通す	4.25	3.97						
たいていは自分一人で物事の決断をする	3.74	3.46						
良いか悪いかは、自分自身がそれをどう考えるかで決まると思う	5.00	4.59						
自分の考えや行動が他人と違っていても気にならない	3.89	3.76						
仲間の中での和を維持することは大切だと思う	6.02	6.02	他者への親和・順応	4.87	4.96	相互協調性	4.66	4.78
人から好かれることは自分にとって大切である(t値＝2.024 $p < 0.05$)	**5.23**	**5.59**						
自分の所属集団の仲間と意見が対立することを避ける	4.56	4.55						
自分がどう感じるかは、自分が一緒にいる人や、自分のいる状況によって決まる	4.50	4.55						
人と意見が対立したとき、相手の意見を受け入れることが多い	4.38	4.47						
相手やその場の状況によって、自分の態度や行動を変えることがある	4.57	4.59						
人が自分をどう思っているかを気にする	4.94	4.78	評価懸念	4.40	4.48			
何かを行動するとき、結果を予測して不安になり、なかなか実行に移せないことがある	4.21	4.49						
相手は自分のことをどう評価しているかと、他人の視線が気になる	4.58	4.68						
他人と接するとき、自分と相手との間の関係や地位が気になる	3.84	3.97						

動内容に興味があったから」が 52.2 %となっている。また、「友だちを作りたかったから」も 4 割強を占める。「情報誌作成」では、「活動内容に興味があったから」が 61.1 %と最も高く、次に「楽しそうだから」が 55.6 %となっている。「フォローアップ研修会」では、「活動内容に興味があったから」が 77.1 %と最も高く、これは他の活動よりも高い割合となった（表 11)。

表 8　子育てキーパーソン養成講座受講理由　N=93

	度数	パーセント
子育て支援活動を行いたかったから	12	12.9
社会参加がしたかったから	13	14.0
講座内容に興味があったから	59	63.4
友だちを作りたかったから	33	35.5
友だちに誘われたから	25	26.9
社会福祉協議会職員に誘われたから	25	26.9
主任児童委員に誘われたから	2	2.2
子育てキーパーソンに誘われたから	14	15.1
子育てキーパーソンの活動が楽しそうだから	24	25.8
託児付きの講座だったから	40	43.0
その他	3	3.2

表 9　活動参加状況

	度数	パーセント
現在、活動中	29	31.2
参加したことはあるが、現在は参加していない	47	50.5
参加したことがない	17	18.3
合計	93	100.0

表10　活動内容別参加状況　N=93

	度数	パーセント
子育てサロン企画・運営	69	90.8
情報誌作成	18	23.7
フォローアップ研修会	35	46.1
行政への提案活動	4	5.3

表11　活動別参加理由

	子育てサロン企画・運営 N=69		情報誌作成 N=18		フォローアップ研修会 N=35		行政への提案活動 N=4	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
活動内容に興味があったから	36	52.2	11	61.1	27	77.1	1	25.0
社会参加したかったから	10	14.5	3	16.7	2	5.7	1	25.0
友だちを作りたかったから	29	42.0	2	11.1	1	2.9	0	0.0
友だちに誘われたから	15	21.7	5	27.8	9	25.7	0	0.0
社会福祉協議会職員に誘われたから	10	14.5	8	44.4	17	48.6	2	50.0
主任児童委員に誘われたから	0	0.0	1	5.6	0	0.0	0	0.0
子育てキーパーソンに誘われたから	15	21.7	5	27.8	7	20.0	0	0.0
楽しそうだから	40	58.0	10	55.6	15	42.9	0	0.0
その他	7	10.1	1	5.6	8	22.9	1	25.0

養成講座受講後の変化を自由記述で尋ねたところ、以下のような回答がみられた。

・子育てに関する変化

－子育てを楽しめるようになった

－子どもにおおらかに接することができるようになった

・自分自身の変化

－友人が増えた

－自信を持つことができた

－視野が広がった

－積極的に話しかけるようになった

－責任感を持ってサロンに参加するようになった

社会福祉協議会職員の働きかけで良かった点を自由記述で尋ねたところ、以下のような回答がみられた。

・接し方

－気さくに話しかけてくれる

－同じ目線で接してくれる

－顔を覚えてくれる
－子どもの名前を覚えてくれる
－親身に話を聞いてくれる
・サポート体制
－サロン運営等への適切なアドバイス
－サロンに頻繁に足を運んでくれる

5．考察

子育てキーパーソンの特性と活動状況を踏まえ、子育て世代が地域福祉活動に参加するための有効な働きかけとして次の４点が推察された。

①「親密性（親身な接し方）」

自由記述であげられた「気さくに話しかけてくれる」「同じ目線で接してくれる」「親身に話を聞いてくれる」などの接し方が子育てキーパーソンにとって関わりやすさにつながっていると思われる。また、「顔を覚えてくれる」「子どもの名前を覚えてくれる」という行為は子育てキーパーソン一人ひとりを個別に見ていることの証左であり、狭い世界に閉じこめられがちな子育てを行っている（行っていた）子育てキーパーソンにとっては社会からの承認にもつながると考えられる。

養成講座の受講や活動への参加理由について、それぞれ２～３割の方が「社会福祉協議会職員の誘い」と答えているが、これらの接し方がベースにあるために信頼して誘いに応えることが出来ていると思われる。

②「主体性（子育て世代主体の運営）」

「参加者へ積極的に声をかけるようになった」「責任感を持ってサロンに参加するようになった」などが自由記述でみられたが、これらは養成講座を受講し、サロンの運営企画に主体的に関わってもらうように働きかけた結果であると考えられる。受け身ではなく主体的に関わることが「自信を持つことができた」「視野が広がった」という記述にもつながっていると考えられる。

受講前と比較した結果ではないため推論であるが、自己観において「相互独立性」が有意に高い結果となったのは、もともと高い人が子育てキーパーソンとなったのではなく、活動の中ではぐくまれたと考えられる。このことは、講座受講後の変化についての自由記述で「自信を持つことができた」「視野が広がった」

という記述からも推察される。

また、その結果として地域活動への参加にもつながっていると考えられる。

③「継続性（社協職員の継続的な関わり）」

自由記述では「サロン運営等への適切なアドバイス」「サロンに頻繁に足を運んでくれる」ことが助かったと述べられていた。２点目であげた「子育て世代主体の運営」は、小さい子どもを持つ親にとっては負担に感じられることも多い。サロン企画運営に携わる理由として６割弱の方が「楽しそうだから」と答えており、最も多い回答となっている。逆に言えば楽しくなければ携わるのをやめてしまう可能性も高いと言え、無理なく携わっていってもらうためには、職員が継続的に関わりを持ち、子育てキーパーソンに任せきりにしないことが重要であろう。また、このことはサロン参加者からキーパーソンになってもらう流れの中でも重要なポイントである。子育てキーパーソンが養成講座を受講した理由として、25.8％の方が「子育てキーパーソンの活動が楽しそうだから」を選んでおり、４分の１を超えている。子育てキーパーソンが安心感を持って、楽しく活動をしていることがサロン参加者の養成講座受講へつながるのである。

④「連結性（人と人をつなげる働きかけ）」

受講後の変化として多くの方が友人が増えたことをあげ、そのことへの感謝や喜びの言葉が多数みられた。養成講座やサロン企画運営への参加理由として、３割から４割の方が「友人を作りたかった」と答えていることも合わせて考えると地域において孤立化しやすい子育て世代にとって人と人をつなげる支援が地域福祉活動の入り口として重要であると考える。

また、人とつながることで子育て不安が低減されていることも推察される。

６．課題

子育てキーパーソンの特性と活動状況については、ある程度把握できたが、子育て世代が地域福祉活動に参加するための有効な働きかけについては、さらに知見を深める必要があると考える。そのために子育てキーパーソンへのインタビュー調査を今後、行っていきたい。

注

1）和田敏明『地域福祉の担い手』ぎょうせい、2002年、p.8

2）武川正吾『地域福祉の主流化』法律文化社、2006年、p.43

3）山縣文治「子育てを見る目は変わったか－子育て支援サービスの課題と方向－」『発達84』、ミネルヴァ書房、2000年、所収。

津止正敏、藤本明美、斉藤真緒『子育てサークル共同のチカラ－当事者性と地域福祉の視点から－』文理閣、2003年

4） 全国社会福祉協議会『ノーマ社協情報9月号』、2008年